

1. 活動報告（事務局 塩谷 記）

1月26日（土） 今日はいにくの雨、外で作業ができませんので、市民センターで遊歩道に設置する案内板と3月24日に予定している竣工式の打ち合わせをしました。途中、自然保護協会の末村さんも合流。野鳥の巣箱の話や野鳥の話でワイワイガヤガヤ。野鳥の巣箱の入り口は500円玉の大きさ、それ以上はよくないとのこと、ひとつ勉強になりました。

2月2日（土） 今日女性の新入会員をお一人お迎えしました。小さな子供さんを連れ頑張っておられました。午前中にミズゴケとりと遊歩道の整備をしました。軽トラックいっぱいミズゴケを湿地に植栽しました。午後からは市民センター前とビオトープに立てる案内板の図案を作りました。遊歩道の名前は（昭和山遊ロード二俣瀬）に決定しました。2月末までには設置されます。

2月2日（土） 宇部自然保護協会が（里山ビオトープ二俣瀬周辺の野鳥一冬編）を出版されます。15ページにわたり10月から12月にかけて調査・観察された内容が記されています。各野鳥の出現率やレッドデータブックに掲載されている絶滅危惧種の野鳥など興味をそそる内容です。出版は2月の中旬の予定。

2月4日（月） 岡山県瀬戸町より岩藤龍右さん等5人の方が視察に来られました。「ボランティアで入会するにはどうするのですか」との質問に、「土曜日に突然来られても、大丈夫。事務局に入会します。と言えば入れます」。瀬戸町のみなさんのご健闘をお祈りします。

2月9日（土） 今日、男性の新入会員がありました。先週入会された女性のご主人です。小さい子供さんも含めて一家そろって頑張ってくれています。午前中ヒムロの木を6本掘り、ビオトープに植栽しました。ビオトープの木々も枝の先端が赤くなり、もうすぐ新芽がでようとしています。もう春の気配がしてきます。

2月13日（水） 市民センター裏からビオトープにいたる遊歩道（昭和山遊ロード二俣瀬）の案内板の図案が決定しました。ここにいる多くの動植物の写真がふんだんに使われています。野鳥については自然保護協会が立てられますので、野鳥の割合は少なくなっています。

2月15日（金）（青空を守ろう会）代表の東京屋クリーニング代表取締役池永輝義さんから、つくる会に寄付がありました。今井会長から新しいパンフレットなど有意義に使用させていただきます。とお礼の挨拶。

2月16日（土） ペルー共和国からカルロスさんとアルベルトさんの研修生、通訳なども含めて総勢40人の作業は木のプレートの設置、順路案内板の設置、不法投棄ゴミの撤去等でした。カルロスさんとアルベルトさんも、なれない手つきでノコを使用されました。作業と平行して吉富さんが猪の肉の調理、原田さんと秋吉さんがムスビを作ってくれ、終了後、猪肉で大焼肉会です。ペルーには猪がないそうで、おいしいと沢山食べられました。

2月21日（木） 宇部地域環境パートナーシップ会議の第2回の会議が宇部市役所で開催されました。参加各団体から事業の経過報告がなされました。

2月23日（土） 今日の作業は環境整備と全体会議。2班に分かれて1班は遊歩道の空き缶等ゴミ拾い。もう一班は木の整理。約1時間半で終了。その後市民センター裏庭で全体会議。竣工式までにやり残したことはないか、新たなパンフレットの製作について、ヒュッテ桂谷ランプの宿からの交流申し込みへの対応など話し合いました。

2. 今後の予定（事務局 塩谷 記）

ビオトープも遊歩道も会員のみなさんの奮闘で、予想以上のペースできています。これから竣工式までは、やり残したことを中心にやっていきます。たとえば須賀河内川の空き缶ひろい、かぶとむしの小屋の屋根の補修など。（毎週土曜日、午前中のみの作業となります。） さらに、23日の全体会議で確認したように、ヒュッテ桂谷ランプの宿から申し込みのあった交流会については、マイクロバスをかりて行きたいと思います。

3. ビオトープ関連（ビオトープで観察される動植物）

“二俣瀬ビオトープにおけるトンボ相について...第7回” （原 隆 記）

- ・1月27日（日）曇り時々雨 風強い。今日は、あいにく晴れたり時々雨が降ったりして、最悪のコンディションでした。鳥の声もあまり聞こえてきません。先日ビオトープ含めて周辺で採集したトンボのヤゴ達は、家の水槽の中で静かに早く春の訪れを待っています。羽化したらはっきりした種の同定ができます。
- ・2月3日（日）晴れ 風強い。天気はいいのですが、冷たい風が強くてまだまだ、春、遠からじ...という感じです。さて、春と言うと思いつくのは、つくし・ふきのとう・わらび・たんぼぼ・梅・桜...と色々ありますが、ここでは、いつごろどのあたりで見られますか？ トンボ（ヤゴ）の調査：川...ヤマサナエ1（終令）、コオニヤンマ...3（小さい）、コシボソヤンマ...3（小さい）、池...ギンヤンマ3（小さい）、トンボのヤゴ...多数、イトトンボのヤゴ...多数。まだまだ、ビオトープの水は冷たいです。そんな中で虫たちは頑張って生きています。
- ・2月9日（土）晴れ 気温13 at 14時。今日は、比較的好い天気家でいたらポカポカ陽気です。でも、やはりここに来ると自然は厳しく少し曇ったり風が吹くと気温はすぐに2～3は下がります。今日のトンボ：オツネトンボ...2、ホソミオツネトンボ...1、ホソミイトトンボ2。久々にトンボの姿見られました。なんとなく、ほっとしました。冬の

寒い時でも風の無い暖かい日に草の中を良く見ると、越冬するトンボが見られます。枯れ草のような色にトンボの体に変化しているのを気をつけて観察して下さい。冬を越すと鮮やかな青色に体に変化します。小さなイトトンボですが、立派に大自然の中で生きてるんですね。池のカエルの卵が孵化して、10mm位の幼生が沢山池底にじっとしています。メダカも元気に時々水面近くで泳いでいます。それから、池周辺や草むらに小さな白い花が、沢山咲いていますが、何と言う花ですか？分かる方教えて下さい。ピオトープの係わってから自分の知らない物に少しずつ感心を持つようになりました。大変いい事だと感じています。

- ・2月11日(月) くもり時々小雪 風強い。こんな日のピオトープは、打って変わって厳しい表情をしています。池の水面も波打って草木も大きく揺れています。聞こえてくるのは、風の音だけで生き物たちの声も姿もありませんでした。今日は、調査出来ませんでした。少し残念です。
- ・2月15日(金) 晴れ 風無し 気温15 水温9 (止水の池) 13時。今日は、徐々に天気も良くて風も無く午後から来てしまいました。とても、いい天気で風も無く気分も最高です。春を思わせるような陽がさしてきます。春までもう一息です！今日は、小鳥のさえずりや川のせせらぎが聞こえて来ます。最近、ノートを開いて見てもほとんど記帳が無くて少し寂しいですが、冬なので仕方ないかなと思います。でも、冬のピオトープも見たいです。朝、8時頃来ると水車に氷が全面にくっついて、最近では身近で見られない氷柱(ツララ)も見られ池や湿地の表面も氷が張っています。一瞬ですが昔この時期よく見た光景と重なり感動します。今日のトンボ： オツネトンボ...2、ホソミオツネトンボ...1、ホソミイトトンボ1 1。トンボ(ヤゴ)の調査： 川...コオニヤンマ...(終令)、コシボソヤンマ...3(小さい)、池...ギンヤンマ多数(小さい)、トンボのヤゴ...多数、イトトンボのヤゴ...多数。水温が、まだ低いのでヤゴはあまり活発に動かず摂食活動もしてません。池の底の泥の中や枯れ草に隠れてじっと春の訪れを待っています。
- ・2月16日(土) 晴れ 風無し。トンボとは、関係ありません。今日の、作業は疲れました...しかし猪の焼肉は始めてでしたが最高に美味しかったです。それに、色々人生の教訓を教えてもらってありがとうございます。ピオトープの参加出来てあらためて良かったと感じ今も余韻が残っています。それから、ぜひペルーの蜻蛉見たくなりました。今日は、本当に皆さんお疲れ様でした。これからも、頑張ってみんなの力と知恵でこのピオトープを完成させましょう！私も、力不足ですが頑張ります。

ここ「里山ピオトープ二俣瀬」に持ち込んだ草本類の紹介は今回でひとまず終わります。(北村 健治 記)

<第六回> * イ (イグサ科イグサ属)

野山の湿地に生える多年草。花は茎の途中に黄褐色の穂のようなものが6~9月に咲きます。またの名をトウシンソウ(灯心草)と呼びます。昔、燭台の芯に使ったことからその名が付いたようです。同じ仲間に、ホソイ、クサイなどがあります。同じ「イ」が付くホタルイ、サンカクイ、フトイなどは、別の仲間でカヤツリグサ科です。この「里山ピオトープ二俣瀬」では、植栽が始まって一番初めに須賀河内川の上流の休耕田より湿地ゾーンの須賀河内川側にまとめて移植しました。

* ガマ (ガマ科ガマ属)

湿地や池沼の浅いところに生える多年草。葉は1~2センチ巾の細長い先の尖った葉です。花は6~8月に雌花の上に雄花が連なって付きます。秋から冬にかけて、ここが綿毛のようになり、因幡の白ウサギの話に出てくることとなります。同じ仲間に、コガマ、ヒメガマなどがあります。茎の長さはほぼ同じですが、葉の巾と花の大きさが異なります。この「里山ピオトープ二俣瀬」では、上記の湿地ゾーンの中央付近の板橋の側と池ゾーンの中の島付近に近くの沼より移植しました。

“二俣瀬のピオトープ周辺で観察される鳥” (宇部自然保護協会 末村 和行さん 記)

1月：天堤池の周辺では、ツグミの群れが飛んでいます。多いときには50羽の大群の乱舞が見られます。林床では、シロハラがカサカサと落ち葉をひっくり返して餌を探している音を聞くことができます。

観察できた種： コガモ、ダイサギ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、キジバト、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、キクイタダキ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

ピオトープ周辺の野鳥： 今週末には冊子が出来ます。宇部時報、ウベニチには報告書の記事を掲載していただきます。

看板： 3月10日頃に現地に設置予定です。

観察会： 4月14日にピオトープとその周辺で野草等の観察会を行い、採取した野草を天ぷらや和え物で頂きます。ピオトープをつくる会の方にも参加して頂きたいと思います。

4. ピオトープ関連 (ピオトープ近辺の案内)

“道標(みちしるべ)” (車地 吉富 壮介 記)

ピオトープから奥へ300M、道ばたに白い標柱が立っている。古い“道標”を知らせる案内で、本物は小川を渡って15M下流側へある。10センチ角、50センチの石柱が「それ」。「右あじすみち、左さくみち」とある。足と馬だけで移動していた時代、ここから阿知須へ越していた。百年かの風雪に耐えた「それ」は、ためつ、すかしつ、やっと読みとれる程コケむしている。横山から割坂へ越す山の中にも、同種の道標があったが、一昨年、地籍調査の折「抜かれた状態」で見つかった。穴を掘る道具もなく、その俣にして帰ったが、まだ字は読みとれた。あれから二年...、おち葉に埋まったろう。

5. 会員の声

“里山ピオトープ最初の入居者” (藤村 武昭 記)

まだ造成中、真砂土運搬で汗を流していた頃の話。石土路(地名)の石川氏経営の乗馬クラブ近くの土をいただく事になった。

我々は造成用の土が要る。あちらさんはその後の土地は駐車場となる。一石二鳥でもあった。ポチポチ一服だ。ふと採土場を見上げると、良い株立ちの雑木が半分ぶら下る様な格好で、根元を掬われて、後は余命を待つばかりの姿だった。「よーし、これをビオトープに持って帰ろう」。早速、石川さんと交渉、チコンボ（ミニコンボ）で悪戦苦闘、見た目より大株立のアカガシだった。今日、東屋の北西に新しい芽を吹き、悠然と君臨している。君からは賃貸料は取らない。いつまでも健やかに育って、やがて管理人となり、後からの入居者を、あたたかく迎えてやってくれ。 以上

6. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

孫を連れて水車を拝見しました。幼き頃、あちこちに有った水車小屋、なつかしく、すぎし幼き頃に心も打たれて時の流れも感じました。感動しました。有難うございました。又すばらしき自然を大切にしたいと思いつら、帰宅します。（1月13日（日）晴天（小春日和）無風 著者不明）

小春日より。須賀河内川は“はや”や“かまつか”が見受けられましたが、池には鮒1匹も見当たりません。サギが食糧としてとっていったのでしょうか。本年も真鮒や田エビ 従来、須賀河内川や厚東川にいた魚を採取して放流しないと繁殖するどころか次第次第減っていくのでしょうか。（1月13日（日）一会員より）

2回目にこちらに来て、1回目よりもっと感動しました。3才の子供は、かぜぎみにもかかわらず、ここに来て、水に手をつっこんだり、走りまわったり、自然から“気”をもらっているんだなと思いました。カエルの卵が池のあちこちにありました。私も沢山気ももらって、うちに帰ります。 質問：池の底にどろの家をかぶったミノムシみたいなのが沢山いますが、これは何でしょうか。（1月19日（土）晴天 宇部市中村 和田）

節分、いよいよビオトープも春になって来ました。秋まで緑と水に囲まれ美しい景色となると思います。皆様が努力して植栽された草花木々も新緑の頃になるのを楽しみにしています。（2月3日 著者不明）

オタマジャクシがいたよ。孫（将太）とお母さんと3人ではじめて来ました。宇部にもこんなすばらしい所があって感激しました。又、来ます。ありがとうございます。（2月10日（日）和田）

自然を保護しようと活動されている方々を尊敬しています。人間が自然を破壊しているので、人間が自然を保護しないとイケないと思います。（2月16日（土）アルベルト・サト・ヤクシ ペルーからの JICA 研修生の訳文）

今日、この活動に参加させて頂いて、どうもありがとうございます。皆さんの活動は大変有意義です。ペルーでも同様な活動が出来ればと思います。皆さんに親切にして頂いて本当にありがとうございます。（2月16日（土）カルロス・アルサパーロ ペルーからの JICA 研修生の訳文）

7. 会よりの連絡事項

目にみえない会員の努力があります。会員である焼肉レストラン厚東川経営の小林県一さんは「私は仕事柄土曜日にあまり出れないから」と、平日、ヤマモモの木を掘ってきてビオトープに植えてくれたり、メダカやドンコ、カワニナを取ってきて放流してくれています。「子供が来て、何か動くものがないと、かわいそうだから」と。小林さんの笑顔が素晴らしい。

8. 編集後記

早いもので発会式から1年6ヶ月、色々な出来事が走馬灯のように頭を駆け巡ります。まがりなりにも多くの人に愛されるビオトープが出来てよかった。遊ロードも多くの人に愛されて欲しい。いまひとつ、多くの人に来て、出るのはゴミばかりと言われないためにも、地元にメリットのあることがあれば。たとえば、水車の烙印を押したビオトープ饅頭でも作ったらと、この前、編集長と笑いながら話をしました。（塩谷 哲行 記）

里山ビオトープ二俣瀬 会報第 10 号 (写真 1/1)



2月9日 植栽(山から)



2月16日 清掃



2月16日 清掃



2月16日 焼肉